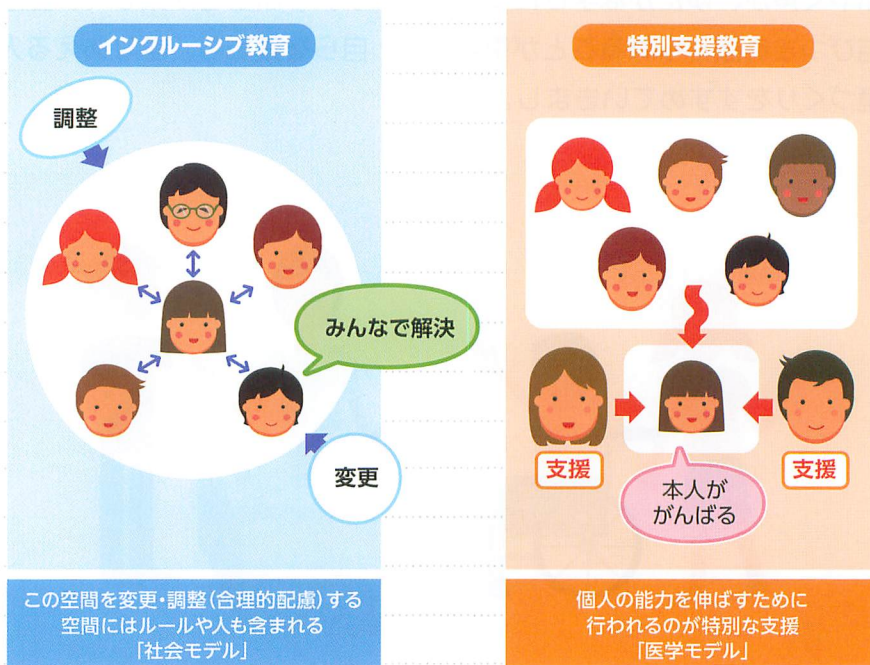


「合理的配慮」によって インクルーシブな学校に!

- 子どもは一人ひとり悩みや困難を抱えているものです。表面上笑顔でいる子どもも人知れず悩みを抱えていることがあります。本人とよく話をし、コミュニケーションをとることで初めてその子どもの困難を知り、寄り添うことができます。学校が安心して過ごせるようなインクルーシブな居場所になるよう、「合理的配慮」を教職員全体で考えていくことが大切です。
- 子どもたちがともに学ぶことは権利です。子どもの個性はそれぞれです。子どもたちを教室の枠の中（教職員の固定観念）に押し込めようとしていませんか？ その枠から外れる子どもを別の場所に無意識に追いやろうとしていませんか。子どもを学校・学級にあわせるのではなく、学校・学級がその子にあわせて変更・調整し、様々な個性の子どもたちが一緒に学べる場となるようみんなで考えましょう。

インクルーシブ教育と特別支援教育のちがい



※インクルーシブな学校の中の一部に「特別支援教育」があります